



公益財団法人
北九州産業学術推進機構

FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

2016

事業報告書

ANNUAL REPORT

目次

(公財)北九州産業学術推進機構について 1

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要 3

学研都市の進出大学、研究機関、

企業および産学連携施設 5

アジアの学術研究拠点の形成 9

地域交流・広報活動・施設の市民開放 11

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー) 13

情報収集・発信、産学交流の促進 13

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》 16

研究開発支援 17

技術拠点化の推進 21

国家戦略特区の取り組み 24

中小企業・ベンチャー企業の総合的支援

中小企業の総合的支援 25

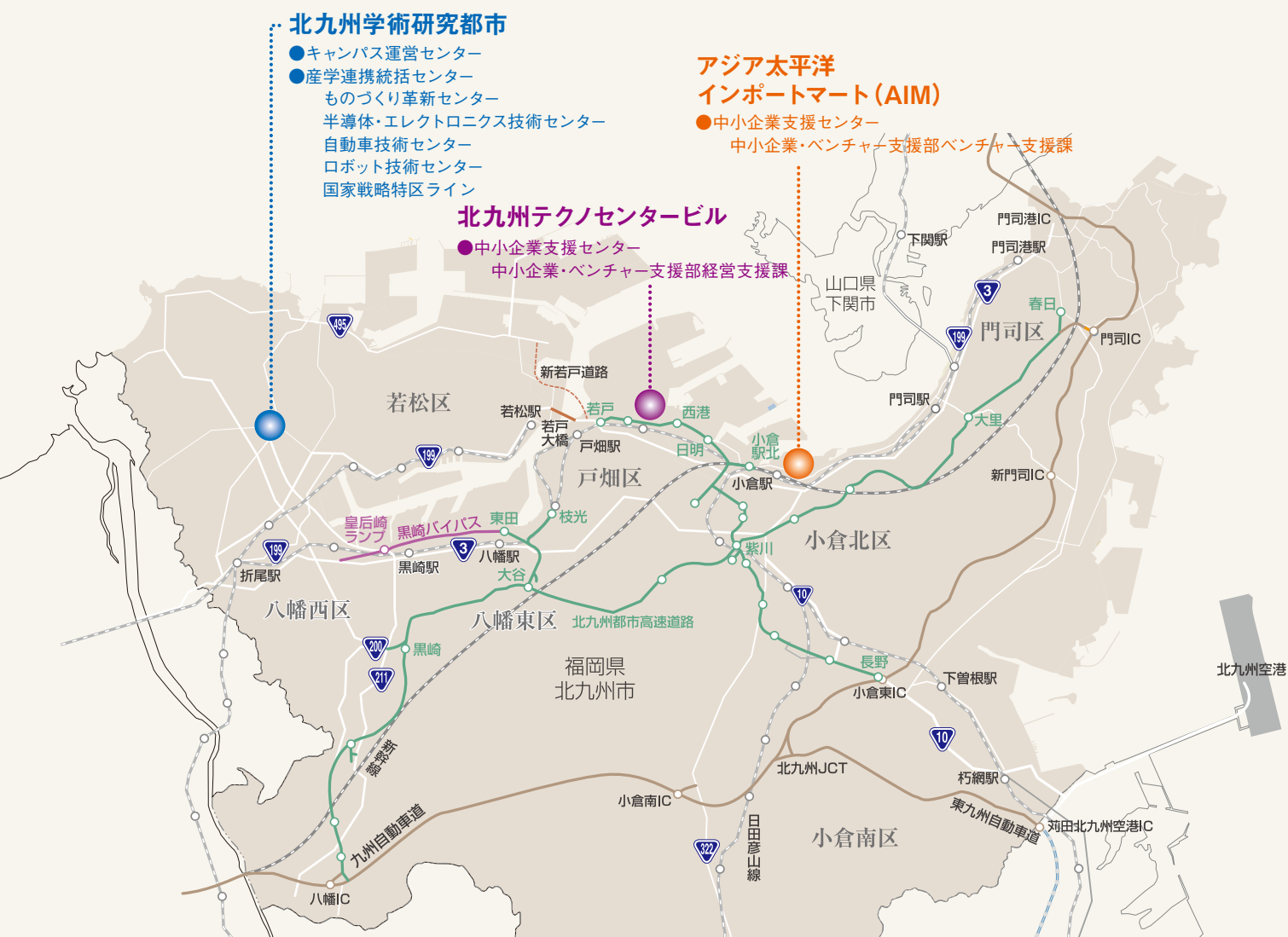
ベンチャー企業の創出・育成 26

財団運営

評議員および役員名簿 27

決算資料 28

アクセスマップ 32



はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構^{フェイス}(FAIS)は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

現在、北九州学術研究都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、その他に14の研究機関や、46の企業等が集積しています。

開設時には約300人だった学生数は、現在約2,400人となり、そのうち留学生は600人を超え、まさにアジアを中心とした各国からの頭脳が集まるキャンパスとなりました。

FAISは、この学研都市の一体的運営や産学連携の推進、地域中小企業の経営支援やベンチャー企業の創出・育成に取り組んでいます。

本事業報告書が、公益財団法人北九州産業学術推進機構の取り組みをご理解いただくための参考となれば幸いです。



公益財団法人 北九州産業学術推進機構

フェイス

FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

- 理事長／松永 守央
- 基本財産／2億円(全額北九州市出捐)
- 役員等構成／[学界] 学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
[産業界] 商工会議所等経済団体
[行政] 北九州市、福岡県
- 職員数／63名(H29.5.1現在)、市派遣：10名、県派遣：1名、
民間出身等：31名(うち出向13名)、事務嘱託等：21名
- 平成28年度事業費(支出決算額)／22.5億円
(うち、国等の受託研究等約4.2億円)

北九州学術研究都市の
一体的運営

- 施設の管理・運営
- アジアの学術研究拠点の形成
海外大学等との共同研究支援
海外との交流協定
留学生支援
- 地域交流・広報活動

研究成果の
特許化、
事業化支援
北九州TLO

産学連携の推進

- 情報収集・発信、産学交流の促進
- 研究開発支援
- 技術拠点化の推進
半導体技術拠点化
自動車技術拠点化
ロボット技術開発拠点化

アジアに開かれた学術研究拠点
新たな産業の創出、技術の高度化
地域の産業・学術の振興

中小企業の
総合的支援、
ベンチャー企業の
創出育成

- 経営相談・専門家派遣・
販路開拓支援
- インキュベーション施設の
管理・運営

キャンパス運営センター

北九州学術研究都市内にある
共同利用施設の管理・運営を行う
とともに、進出大学間の連携・交
流を促進し、学研都市の一体的な
運営を行っています。



中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1(北九州テクノセンター1階)

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支
援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個
人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓
口、専門家派遣等のほか北九州知的所有権セン
ターやインキュベーション施設である北九州テレ
ワークセンター等の運営も行っています。



◎地元中小企業への総合支援

※総合相談窓口 ※専門家派遣

◎北九州知的所有権センターの運営



◎北九州テレワークセンターの運営

※インキュベーション機能の提供
※ビジネス展開の拠点の提供
※市民の情報リテラシー向上の場の提供
北九州テレワークセンター／
小倉北区浅野3丁目8-1AIMビル6F



産学連携統括センター

先端科学技術分野の研究を行う大学・研究機関の知的基盤を活用した産学共同研究や技術移転のコーディネートを行い、産業技術の高度化や新産業の創出を促進しています。



- ◎産学連携のコーディネート
- ◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信
- ◎産学交流の場の提供
- ◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援
- ◎産学共同研究開発への支援
- ◎北九州TLOによる技術移転支援
- ◎地域イノベーション戦略支援プログラムの推進

ものづくり革新センター

従来型支援（市内企業・大学が提案・実施するプロジェクトの競争的資金獲得・運営等）に加え、激変するものづくりに対応べく、「革新的ものづくり」を実現するプロジェクト創出、研究会運営等を通して、市内企業の産業競争力を強化支援します。

- ◎「革新的ものづくり」実現に向けた支援活動
- ◎研究開発支援
- ◎事業化支援

自動車技術センター

自動車産業の拠点化を推進するために、産学官連携による研究開発支援・人材育成を行っています。企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進するとともに、学研都市3大学による連携大学院「カーエレクトロニクスコース」、「インテリジェントカー・ロボティクスコース」の支援など、専門人材の育成に取り組んでいます。

- ◎研究開発支援
- ◎人材育成



▲自動車技術・ロボット技術・半導体技術の支援、拠点となる技術開発交流センター



▲自動車工学「エンジン分解・組立実演」の様子（協力：日産自動車九州株）

ロボット技術センター

北九州地域のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営をしています。ロボット技術の調査、開発から実証までのコーディネートや学研都市内の大学とロボット関連企業との共同研究開発を通して、ロボットの技術開発および実証の拠点化を進めています。また、市内企業へのロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しています。



▲ロボット・IoT実証システム

- ◎ロボット技術の調査、開発
- ◎実証化・事業化のコーディネート
- ◎人材育成
- ◎中小企業へのロボット導入支援

半導体・エレクトロニクス技術センター

半導体・エレクトロニクス産業の振興のため、新たなアプリケーションの創出を目指し、ベンチャー・中小企業等の支援、産学連携の促進、人材育成等の事業を展開しています。

なお、新商材の創出を目指すベンチャー・中小企業等支援の一環として、設計・評価・解析環境の提供も行っています。

- ◎半導体関連企業の支援
- ◎半導体開発支援
- ◎半導体関連の人材育成（ひびきの半導体アカデミー）
- ◎ひびきのLEDアプリケーション創出協議会の運営



▲セミナー



▲技術交流会

国家戦略特区ライン

ロボット技術等による介護職員の負担軽減と介護の質の向上を目的として、介護現場の作業分析（見える化）や介護ロボット等の実証を行っています。また、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を運営し、作業分析等で得られた情報を基に、介護ロボット等の開発や改良の支援を行っています。

- ◎介護施設における作業観察・分析
- ◎介護ロボット等の実証
- ◎介護ロボット開発コンソーシアム運営
- ◎介護ロボット等の開発・改良支援



▲移乗アシスト装置（株式会社安川電機）

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した 地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点

新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す

**アジアの
先端産業都市
の実現**

(北九州市新成長戦略の目標)

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、 研究開発型企业等を 同一のキャンパスに集積

◎国・公・私立大学(1学部4大学院)

北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科

九州工業大学大学院生命体工学研究科

早稲田大学大学院情報生産システム研究科

福岡大学大学院工学研究科

◎研究機関(14機関)

◎研究開発型企业等(46社)

(平成29年7月1日現在)

進出大学の教育・ 研究理念の共通化

◎先端的な科学技術分野での

教育・研究の展開

◎産学連携の促進

◎起業家精神の育成

◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、 施設の共同利用

◎学研都市進出大学の代表者で

構成する「キャンパス運営委員会」による

共同事業の企画・立案

◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用

研究者・教員・学生相互の交流と連携

◎進出大学による共同研究、教員等の交流

◎単位互換の実施

◎進出大学による連携大学院の運営

連携大学院カーエレクトロニクスコース

連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース

北九州学術研究都市整備事業

◎整備の基本方針

北九州学術研究都市の開発は、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端科学技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅街の供給を同時に行う『複合的な街づくり』として進めています。

◎開発地域／若松区西部・八幡西区北西部

◎開発総面積／約335ha

◎計画人口／12,000人(昼間人口)

住宅4,000戸

◎整備スケジュール

第1期事業(約121ha)

平成7年度～17年度 ※事業完了

事業主体:(独)都市再生機構

第2期事業(約136ha)

平成14年度～29年度

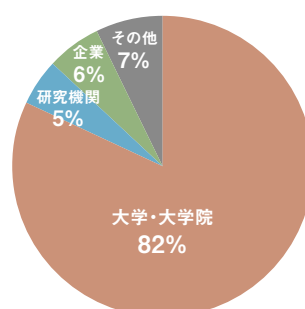
事業主体:北九州市

第3期事業(約68ha)

検討中

河川事業(約10ha)

【土地利用概略図】



北九州学術研究都市の昼間人口
(平成29年5月1日現在)

約3,400名

学生	2,401名 (うち留学生621名)
教員 ※専任教員のみ	165名 (うち企業出身者15名)
研究員	191名 (うち外国人研究員62名)

北九州学術研究都市整備のあゆみ

平成元年(1989年)		「北九州学術研究都市基本構想」策定
平成8年(1996年)	2月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)着手
平成12年(2000年)	4月	「九州工業大学大学院生命体工学研究科」開設
平成13年(2001年)	4月	「北九州学術研究都市」オープン
		「北九州市立大学国際環境工学部」開設
平成14年(2002年)	1月	「共同研究開発センター(産学連携センター2号館)」開設
	4月	「福岡大学大学院工学研究科」開設
		「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」(第2期事業)着手
	5月	「情報技術高度化センター(産学連携センター3号館)」開設
平成15年(2003年)	4月	「北九州市立大学大学院国際環境工学研究科」開設
		「早稲田大学大学院情報生産システム研究科」開設
平成17年(2005年)	4月	「事業化支援センター(産学連携センター4号館)」開設
平成18年(2006年)	6月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)完了
平成20年(2008年)	7月	「技術開発交流センター(産学連携センター5号館)」開設
平成21年(2009年)	4月	「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」開設
平成23年(2011年)		北九州学術研究都市 10周年
平成25年(2013年)	4月	「北九州学術研究都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」開設
	10月	「産業用ロボット導入支援センター」開設
平成29年(2017年)	4月	「北九州市立ひびきの小学校」開校

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員：1,000名
エネルギー循環化学科
機械システム工学科
情報メディア工学科
建築デザイン学科
環境生命工学科

大学院国際環境工学研究科

■学生定員：336名
環境システム専攻
環境工学専攻
情報工学専攻



2 九州工業大学大学院



生命体工学研究科

■学生定員：352名
生体機能応用工学専攻
人間知能システム工学専攻
生命体工学専攻

3 早稲田大学大学院



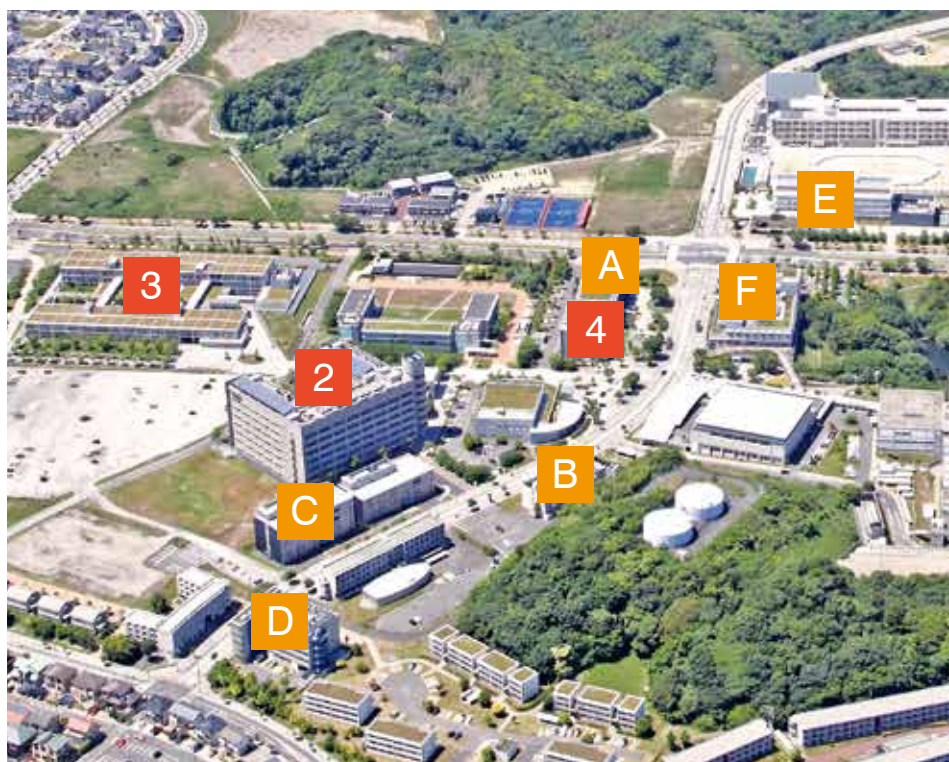
情報生産システム研究科

■学生定員：460名
情報アーキテクチャ分野
生産システム分野
集積システム分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員：32名
資源環境・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻



学生数および教員数

(平成29年5月1日現在)

大学	学部	修士	博士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学	1,140	—	—	4	0	1,144	88
国際環境工学部	(22)	—	—	(4)	(0)	(26)	
北九州市立大学大学院	—	303	64	2	0	369	—
国際環境工学研究科	—	(57)	(48)	(2)	(0)	(107)	
九州工業大学大学院	—	271	141	1	1	414	42
生命体工学研究科	—	(24)	(50)	(1)	(1)	(76)	
早稲田大学大学院	—	422	47	0	0	469	33
情報生産システム研究科	—	(381)	(27)	(0)	(0)	(408)	
福岡大学大学院	—	4	1	0	0	5	2
工学研究科	—	(4)	(0)	(0)	(0)	(4)	
合計	1,140 (22)	1,000 (466)	253 (125)	7 (7)	1 (1)	2,401 (621)	165

()内は留学生数

※産学連携センター内

A 産学連携センター

産学連携センター
1号館

産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関や、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、100人程度まで対応できる会議室や研修室なども提供しています。

- 貸研究室(31室)
- 研修室、会議室(中・小)

B 共同研究開発センター

産学連携センター
2号館

半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習(CMOSプロセス)の受け入れも可能です。



- 貸研究室(7室)
- 共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置
(イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置(RTA)、ダイシングソー、ボンディング装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター
3号館

ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。コンテンツ制作や半導体設計を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。



- 貸研究室(26室)
- 会議室
- 半導体設計を行う研究開発機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター
4号館

大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

一般事務系オフィスのほか、機械系と化学系の研究室や、小規模ブース単位で利用できる共同研究室を提供しています。



- 貸研究室(36室)
- 会議室(中・小)
- 共同研究室(10ブース)

E 技術開発交流センター

産学連携センター
5号館

カーエレクトロニクス、ロボット分野等での新たな技術開発を支援する施設

北九州学術研究都市でのこれまでの成果を活用し、カーエレクトロニクス、ロボット分野等での技術開発を支援する施設です。また、学術研究等を目的に学研都市を訪れる方のための宿泊室も備えています。



- 貸研究室(47室) 機械系研究室、化学系研究室、IT系研究室
- 宿泊室(9室) シングル8室、ツイン1室
- 交流室(2室)
- 会議室(中・小)

F 学術情報センター

図書室
情報処理施設

情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、キャンパス内に整備された大容量ネットワークを利用したさまざまな情報通信サービスを提供しています。

貸研究室賃料

- ◎2,000円/㎡・月(共益費別 500円/㎡・月)
- (例:研究室50㎡の場合およそ150万円/年 光熱水費等別)

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、大学だけではなく研究機関および半導体設計関連企業を中心とした研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も18社入居しています。

進出研究機関

平成 29 年 7 月 1 日現在

	研究機関等の名称	入居場所	研究内容
1	早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	自動車エレクトロニクスおよび LSI 分野において国際的水準の高度な研究、人材育成
2	中国上海交通大学 北九州研究室	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	ユビキタス情報処理先行技術、産業用ロボット・制御システム、アンビエント SoC 技術等に関する研究
3	韓国科学技術院 (KAIST) — 釜山大学校 北九州研究室	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	ロボット産業・エネルギー産業・自動車産業の産業高度化に関する研究開発
4	九州工業大学 先端エコフィッシング 技術研究開発センター	九州工業大学	技術のエコフィッシングを指向した技術の高度化・付加価値化を目指す研究開発および教育
5	北九州市立大学 環境技術研究所	北九州市立大学	地球環境の変化と地域社会の要請に応えるため、環境、エネルギー、バイオマテリアル、情報、ロボット技術等の分野の研究と技術開発を戦略的に推進
6	北九州市立大学 技術開発センター群	北九州市立大学	北九州学術研究都市における技術開発機能を高め、その成果の事業化を推進することを目的に、今後有望な産業シーズを開発
7	公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究 事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けて、産学官民が共同で取り組みながら環境・リサイクル技術と社会システムを併せた研究
8	福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
9	一般社団法人 HiBD 研究所	産学連携センター	再生可能資源、炭酸ガスを原料とする液体燃料製造の研究開発
10	現代美術センター CCA 北九州事業所	情報技術 高度化センター	マルチメディアコンテンツの創造に向けた情報通信による表現技術の研究・開発、大学と連携した人材育成
11	一般財団法人 ファジィシステム研究所	技術開発交流 センター	ファジィ理論を応用した情報処理システムに関する試験研究
12	伊国フィレンツェ大学 国際プラントニューロ バイオロジー研究所 北九州研究室	技術開発交流 センター	新規高輝度 LED 利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発
13	九州工業大学 次世代パワーエレクトロニクス 研究センター	事業化支援 センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究
14	北九州市環境エレクトロニクス 研究所	事業化支援 センター	次世代パワー半導体の設計、信頼性研究、電源の小型化等の研究および大学、企業等との共同研究・人材育成

進出企業

平成 29 年 7 月 1 日現在

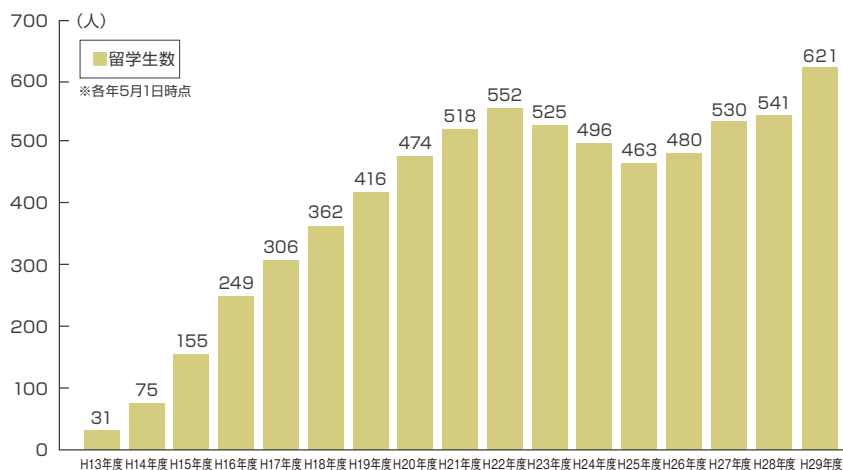
	入居場所	企業名	事業内容
1	産学連携センター	(株)インフォグラム	システム開発、パソコン教育サービス、インターネットサービスおよび前各号に付帯関連する一切の業務
2		石田特許事務所	特許、および実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング
3		● (株)ヒューマンリソース・デベロップメント	ハイパワー LED を有する高出力投光機および高性能ヒートスプレッダーの研究開発、事業化や人材育成等に関するコンサルティング
4		● (株)ラステディアス	LED 照明灯の研究・開発
5		KOA (株)	電子部品、センサ素子、センサモジュールに関する情報収集、情報交換ならびに産学共同開発
6		プラントメイク RISE (株)	焼却炉設備におけるコーティング剤開発、3D スキャナーによる構造計算ソフトの開発
7	共同研究開発センター	(株)セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守 (24 時間 365 日)
8		(有) K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発
9	先端技術高度化センター	(株) Windy	病院、薬局で使用するソフト開発、自動車工場での作業分析ソフトの開発
10		三島光産(株)	薬剤自動除分配機および調剤薬局関連機器の開発、製造
11	事業化支援センター	● (株)ジオクラスター	都市計画・環境に関するコンサルタント、環境製品の開発販売
12		● (有)ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発
13		● 実研開発(有)	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置の開発・販売
14		● (株)ブラテック	Web システム開発、アカデミックソリューション事業
15		● (株)ミックステクノロジー	Actvila (アクトビラ) 対応ブラウザ、BML 対応ブラウザ開発販売
16		● RoboPlus ひびきの(株)	メカトロニクス設計・製造および販売、コンサルタント業
17		(有) OHG 研究所	臨床検査および臨床検査技術の研究開発、生体試料分析
18		博通テクノロジー(株)	無線センサネットワークによる照明節電制御システムの開発
19		ひびきの会計事務所	山口公認会計士・税理士事務所 (公認会計士業務)
20		● (株) STEQ	LED 高放熱、低コスト実装技術の開発と事業化
21		● 日本プライスマネジメント (株)	化学物質のリスク管理ツール開発
22		(有) Seed	医療機関内の物流管理システムの開発
23		(株) AK システム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野への応用研究開発
24		カルソニックカンセイ(株)	北九州市 (環境エレクトロニクス研究所) との共同研究
25		(株) ITS	半導体集積回路等電子部品の研究開発
26		● (株) Key Word Lab	教育支援システム開発、Web システム開発
27		● アーティックス(株)	フィンテックや人工知能に関する研究開発、コンピューターソフトウェアの研究開発
28		● (株)石炭灰総合研究所	改質フライアッシュコンクリートの製造システムに関する研究開発
29		(株)豊光社	分子接着技術を用いた曲面配線技術および高輝度・高信頼性LED照明の研究開発
30		(株)ラボ (起業予定)	デザインと製造設備をクラウドで繋ぐ無人ロボット工場の研究開発
31		● 華榮通商(株)	中国に応用できる環境技術、環境関連型製品の研究開発
32	技術開発交流センター	(株)シキノハイテック	半導体設備の設計 / 製作 / 調整、LSI 回路設計 / レイアウト等
33		吉川工業(株)	RF-ID に関する研究開発事業
34		(株)C & G システムズ	金型設計・加工用 CAD/CAM ソフトウェア開発
35		シャボン玉石けん(株)	無添加の化粧石けん、家庭用洗剤、消火剤などの製造販売
36		(株)トリコ	電気部品の開発・修理
37		● (株)環境フォトニクス	植物育成用 LED 光源等の研究・開発・販売
38		● (株)FILTOM	プラセンタエキス (豚胎盤液) を使った化粧品の開発・製造・販売
39		(株)パラマ・テック	一過性意識喪失発作の原因診断を可能とする心電図・血圧同時連続長時間記録計の研究開発
40		アイシン精機(株)	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発
41		日清紡ホールディングス(株)	自動車の先進運転支援システム (ADAS) におけるセンサーおよびこれらのフュージョンに関する研究開発
42		● ひびきの電子(株)	電界共振型生体センシングおよびセンシングデータ解析システムの開発
43		(株)コイシ	実験と測定
44		● (株)EnH Japan	バイオ・環境関連ナノ新素材および計測機器の研究開発
45		京都電子工業(株)	新規センサー製作の技術要素確立のための試作・評価
46		(一社) 無人機研究開発機構	無人機全般について調査、研究および技術向上について知識の交換、情報提供等を行う場となることにより、無人機に関する研究進歩普及

※●印は学研ベンチャー企業 (18 社)

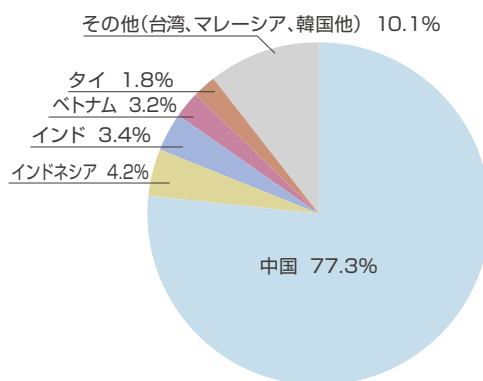
アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳(27か国)】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

FAIS留学生就職支援プログラム事業の運営

北九州学術研究都市内の3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。

受講生	21名(北九州市立大学3名、早稲田大学18名)
プログラム	・就職支援講座(就活セミナー、模擬面接セミナー、就活カウンセリング、身だしなみ・マナー講座等)
	・ビジネス日本語講座
	・日本ビジネス講座(講義は北九州市立大学ビジネススクールの講師に依頼)



昨年のセミナーの様子

語学教育センターの運営

留学生や北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関の職員を対象に、日本語の講座を開講する語学教育センターを運営しました。

●日本語クラス／習得レベルにあわせた初級からビジネス日本語まで
(春期7クラス・秋期9クラス)

●平成28年度受講者／日本語288名



日本語講座

留学生交流事業への助成

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

留学生への宿舍の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舍を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」(1人年間60万円)を給付しました。

●平成28年度給付人数枠／20人

冠奨学金の給付

高度人材として国内外で活躍が期待される学研都市の留学生と地域企業等のネットワーク構築支援目的として創設され、株式会社戸畑ターレット工作所、日本プライスマネジメント株式会社、オムロン株式会社と個人から寄付金(総額494万円)をいただき奨学金を給付しました。

●平成28年度給付人数枠／7人



日備奨励奨学金



株式会社戸畑ターレット工作所奨学金



国際高度人材育成奨学金



オムロン株式会社奨学金

海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定(平成29年5月現在)

【北九州市立大学国際環境工学部・同研究科・環境技術研究所(34機関)】

フランス：パリ第7大学、中国：大連理工大学、ベトナム：ベトナム国家大学ハノイ校、タイ：タマサート大学、台湾：国立成功大学 他29機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科(27機関)】

イタリア：トリノ大学、インド：インド工科大学バラナシ校、中国：中国科学院都市環境研究所 他24機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科(43機関)】

中国：北京大学、台湾：国立台湾大学、韓国：延世大学校、タイ：タマサート大学、フィリピン：アテネオ・デ・マニラ大学 他38機関

海外の研究機関等との交流協定

FAISは、台湾のサイエンスパークや中国の上海交通大学およびイタリアのフィレンツェ大学、韓国の韓国科学技術院(KAIST)・釜山大学校と交流協定を締結しています。交流協定を締結した大学や研究機関と北九州学術研究都市内大学との共同研究に対して助成等を行うほか、シンポジウム、セミナーを開催しています。

- 平成16年／台湾 新竹サイエンスパーク、南部サイエンスパークとの交流協定締結
- 平成19年／中国 上海交通大学との交流協定締結
- 平成21年／台湾 中部サイエンスパークとの交流協定締結
- 平成24年／伊国 フィレンツェ大学との交流に関する覚書締結
- 平成27年／韓国 韓国科学技術院(KAIST)、釜山大学校との交流協定締結

海外連携プロジェクトへの助成

北九州学術研究都市に進出した海外の大学(中国：上海交通大学、韓国：韓国科学技術院(KAIST)・釜山大学校)と共同研究を行う学研都市内の大学に助成しました。

●平成28年度実績／共同研究開発助成2件(助成総額700万円)

地域交流・広報活動・施設の市民開放

地域交流イベントの開催

第13回 北九州学術研究都市ひびきの祭

地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、多くの方へ科学やものづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日程／平成28年11月13日(日)

会場／北九州学術研究都市

内容／【FAIS企画】

- ・未来ロボット教室
＜ロボット工作のワークショップや操作体験、様々なロボットのデモンストレーション、ロボット開発に携わる研究者によるトークショー等＞
- ・図書・雑誌リサイクルフェア
- ・ICプロセス体験道場inひびきの ＜クリーンルームの作業体験＞

【地域団体等企画】

- ・ひびきの秋祭り2016＜模擬店、子ども縁日、地域紹介パネル展等＞
- ・ひびきの・みつさだ 気ままに音楽会2016
＜園児演目、中・高合唱/吹奏楽、市民団体合唱等＞
- ・ひびきのフェスタ2016＜キッズダンスコンテスト、模擬店等＞

来場者数／約8,500人



北九州学術研究都市サイエンスカフェ

研究者が市民の輪に入って科学の話題を提供、参加者がともに考えながら、科学技術に対する理解と関心を高めることを目的に開催しました。

平成28年11月13日(日)／テーマ『サービスロボットと遊ぼう！』

講師：九州工業大学大学院 生命体工学研究科 田向 権 准教授

会場：北九州学術研究都市 産学連携センター（若松区）



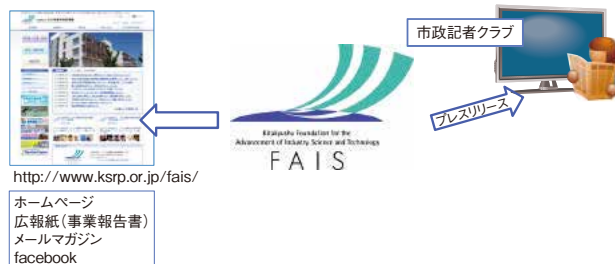
広報活動

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

平成28年度報道件数／193件

(内訳：テレビ・ラジオ等26件、雑誌8件、新聞159件)



展示会への出展

下記の展示会をはじめ、16件の展示会に出展し、北九州学術研究都市の研究成果等を発信しました。

ライトテックEXPO

会 期／平成29年1月18日(水)～20日(金) 総来場者数／110,234人

出展内容／北九州学術研究都市内の企業および大学によるLED関連の研究開発の成果を展示しました。

また、半導体・エレクトロニクス技術センターやひびきのLEDアプリケーション創出協議会の取り組みの紹介などを行いました。

国内外研究者等の受け入れ

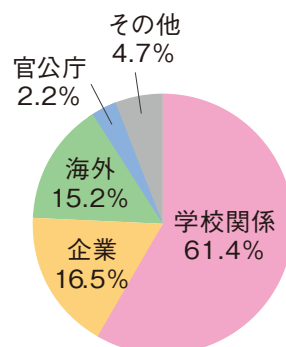
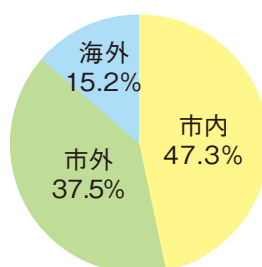
北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

平成28年度視察者数／923人

＊海外／123人(13カ国・地域)

＊国内／800人

【視察者内訳(人数)】



市民も利用できる共同利用施設の運営

学術情報施設

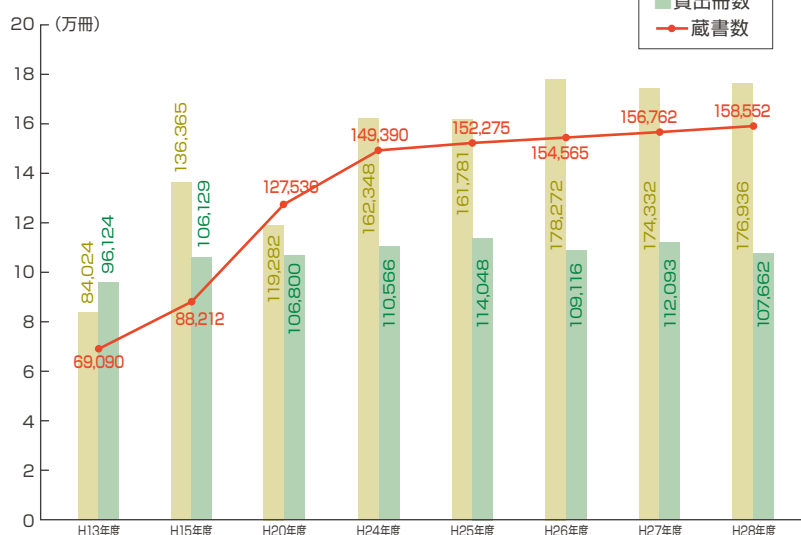
市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ会議ができる遠隔講義室等を備えています。



学術情報センター

【図書室利用状況・蔵書数の推移】



コンベンション・体育施設

会議場／大型映像装置や同時通訳設備を備えた460席の会議場で、講演会やセミナー、学会や国際会議等が開催可能です。懇親会や展示会等に活用できるホールを併設しています。

会議室／数人から200人規模まで、ニーズに応じた様々な形態の会議や研修、地域活動等に利用できます。

体育施設／大学の授業やサークル活動の時間以外は、一般の方も利用可能で、地域クラブや有志サークル等の活動に広く利用されています。



会議場(外観)



会議場(メインホール)



会議場(イベントホール)



会議室



研修室



体育館



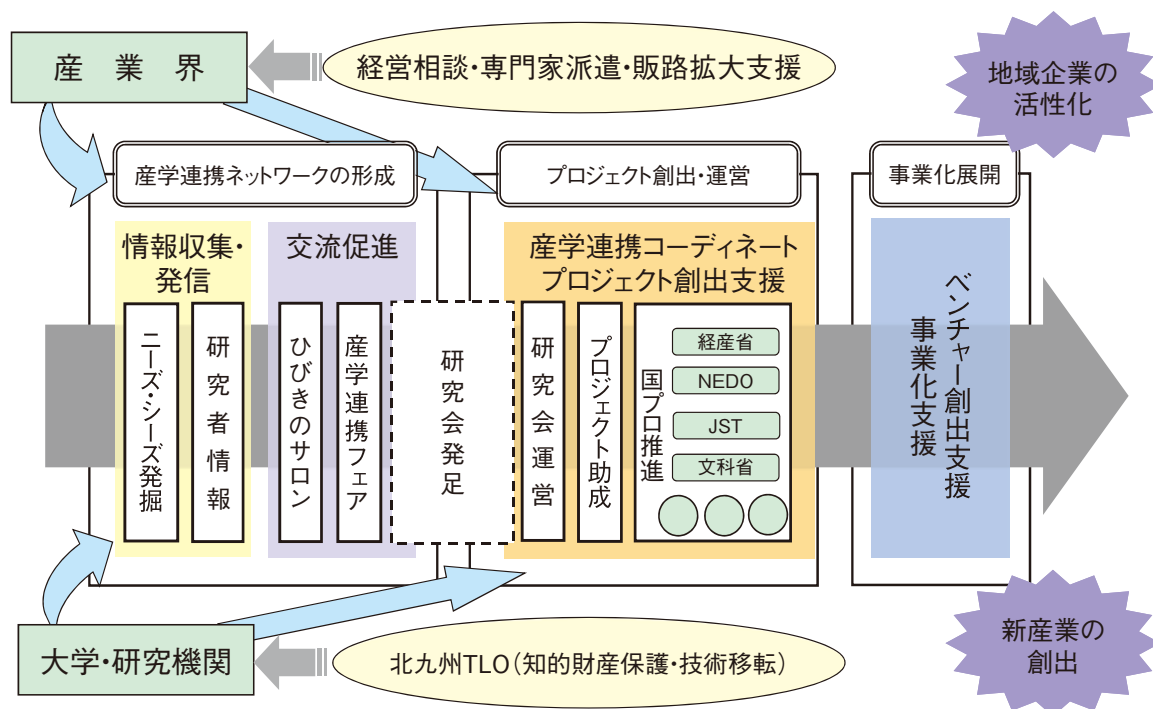
運動場



テニスコート

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー)



情報収集・発信、産学交流の促進

学研都市内研究者の情報提供

- FAISのHP上に「研究者情報データベース」を構築
— 技術キーワードや所属、研究者名等で検索可能
- データベースの情報を基に「北九州学術研究都市の研究者情報」(冊子版・ダイジェスト版)を作成



研究者情報データベース
TOP画面

毎年、市内外の企業等に配布

【H28年度配布数】 ◎研究者情報冊子 約1,500部
◎ダイジェスト版 約3,500部



研究者情報冊子等

メールマガジンによる情報発信

- 「産学連携センターNews」を配信中(平成16年9月～)
セミナー情報や産学連携に関するトピックを随時掲載

◎配信先 約7,300件
◎配信件数 705通配信(平成29年4月1日現在)
◎毎週月曜日配信

常設の産学交流の場

産学交流サロン(ひびきのサロン)の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから平成28年度までに155回開催し、のべ15,140人の方が参加しています。

【平成28年度実績】

日 時	テーマ	講 師	参加人数
第146回 6/8	北九州からAI応用技術を発信 ～「ひびきのAI社会実装研究会」発足記念セミナー～	九州工業大学 東京大学大学院 石川 眞澄 氏 松尾 豊 氏	163
第147回 9/16	3Dものづくり体験会 ～3D技術によるものづくりプロセス革新の最新事例～	(株)ストーンスーブ (株)モビテック (株)C&Gシステムズ (株)戸畑製作所 アイム電機工業(株) (株)有菌製作所 浦元 淳也 氏 兼子 崇文 氏 大賀 行夫 氏 城戸 太司 氏 小田 泰造 氏 千々和直樹 氏	74
第148回 10/7	産業界で活躍する技術系人材に求められるものとは ～第3回カーエレ・カーロボ連携大学院交流会～	アイシン・コムクルーズ(株) 九州工業大学 九州工業大学 清水 勝 氏 森江 隆 氏 渡邊 周太 氏	60
第149回 11/9,10	第149回産学交流サロン「ひびきのサロン」& 第10回IPS海外連携シンポジウム (ISIPS2016) 合同企画	早稲田大学大学院 上海交通大学 吉原 務 氏 Mr. Keyou Wang	150
第150回 12/5	デジタルマイクロ流体バイオチップ・ スマートアプリケーションの世界	デューク大学 クリシュネンドウ チャクラバティ 氏	34
第151回 12/12	環境とエネルギーに関する産学連携とその応用展開	九州工業大学 九州工業大学大学院 (株)フジコー 早瀬 修二 氏 横野 照尚 氏 永吉 英昭 氏	47
第152回 1/20	介護・リハビリロボット開発事例とパーソナルケアロボット (生活支援ロボット)の国際安全規格認証取得と事例紹介	リーフ(株) (一財)日本品質保証機構(JQA) RT. ワークス(株) 北九州市 森 政男 氏 浅田 純男 氏 藤井 仁 氏 柴田 泰平 氏	80
第153回 2/3	産業用ドローン最前線 ～ドローンは未来を変えるか?!～	(株)エンルート (株)デンソー (株)ゼンリン 北九州市 伊豆 智幸 氏 加藤 直也 氏 田内 滋 氏 渡邊 泰三 氏	156
第154回 2/27	都市の環境と自然エネルギー利用について考えてみよう	北九州市立大学 北九州市立大学 北九州市立大学 上江洲一也 氏 河野 智謙 氏 藤井 克司 氏	92
第155回 3/3	環境・消防技術開発センター・国際光合成産業化研究センター 合同シンポジウム「消防・防災研究の基礎と応用」	東京理科大学 北九州市立大学 北九州市立大学 関澤 愛 氏 河野 智謙 氏 加藤 尊秋 氏	56

産と学との出会い創出

第16回 産学連携フェア

地域の大学・企業等の研究成果・活動内容を広く紹介し、産と学との交流の場を提供するため、産学連携フェアを開催しています。

【開催概要】

- 日程／平成28年10月20日(木)・21日(金)
- 会場／北九州学術研究都市
- テーマ／『知と技術の融合』
- 来場者数／5,129人(2日間のべ来場者数)
- 【来場者数内訳】

基調講演	185
セミナー	1,042
展示会	2,782
見学ツアー	159
交流パーティー／ 交流ルーム	514
同時開催	266



第16回産学連携フェアポスター

●基調講演／

『北九州学術研究都市のこれから～15年後の歩みと今後の展望～』

講師 國武 豊喜 氏(公益財団法人北九州産業学術推進機構 顧問)

●特別講演

『生きることを基本に置く社会を』

講師 中村 桂子 氏(JT生命誌研究館 館長)

●セミナー・シンポジウム／

大学、研究機関、企業による、研究成果や新産業創出に関する発表など24のセミナー・シンポジウムを開催

●展示会／

次世代自動車やロボット、環境、半導体・情報アプリケーション、医療・福祉分野等の研究成果や新製品を紹介。

33機関・団体が出展



産学共同による研究会の企画運営

平成28年度研究会活動

先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めました。

◎平成28年度研究会活動

北九州学術研究都市が開設された平成13年度から、様々な研究会を立ち上げてきました。研究会の取り組みは、国等プロジェクトの採択につながっています。

平成28年度は、「3Dものづくり技術研究会」や「作業動作アシストツール職場導入支援研究会」など20研究会を運営しました。



作業動作アシストツール職場導入支援研究会

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO (Technology Licensing Organization)」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果(発明)を特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。<http://www.ksrp.or.jp/faiss/iac/project/tlo.html>

北九州TLOの仕組み・特許出願等

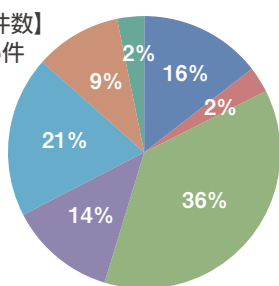


研究成果提供大学等

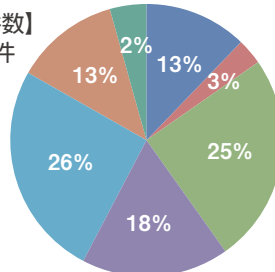
九州工業大学、産業医科大学、北九州市立大学、九州歯科大学、西日本工業大学、九州共立大学、中村学園大学、北九州工業高等専門学校

これまでの特許出願およびライセンス契約の件数(累計)と技術分野の内訳

【特許出願件数】
累計335件



【技術移転件数】
累計219件



【技術分野】

- 健康、医薬、医療
- 食品、農工業
- 情報技術、電気、機械
- 生産技術、新素材
- エネルギー、環境、運輸
- 建設、土木、建築
- その他

これまでに事業化・製品化された事例(一部掲載)

名称	発明者・研究代表者
水添加型の界面活性剤系組成物(環境に優しい泡消火剤)	北九州市立大学 上江洲 一也 教授
新バイオディーゼル燃料(HiBD)の製造方法及び装置とそれに用いる触媒	北九州市立大学 藤元 薫 特任教授
医学実習用解剖台(ホルムアルデヒドの直接曝露防止)	産業医科大学 大和 浩 教授、菊田 彰夫 教授 他
マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置	九州工業大学 鶴田 隆治 教授 他
アスペルギルス属菌及びリゾープ属菌の混合培養系を用いたアミラーゼの生産方法(「高い酵素活性」や「豊富な酸」を持つ新しい麹菌)	北九州市立大学 森田 洋 教授 他

オリジナル麹と北九州市内 産酒造用米を使った日本酒



北九州市立大学ブランド商品
「ひびきのの杜」

マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置



減圧乾燥装置(マイクロ波)



フルーツ＆ベジタブルふりかけ
「ふりーら フルーラ」

研究開発支援

平成29年4月現在

企業・大学等が実施する研究開発に対する支援

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発のために助成金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度

◎新成長戦略推進研究開発事業

名 称	概 要	対象者	助成額（助成率）	助成期間
シーズ創出・実用性 検証事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための調査・研究に対して補助金を交付	市内大学等	100 万円（1/1）	1 年以内
実用化研究開発 事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して補助金を交付	市内企業等	中小企業 500 万円(2/3) その他 500 万円（1/2）	2 年以内

平成28年度採択実績

【シーズ創出・実用性検証事業】 13 件

多糖を利用した免疫細胞の刺激及びがん細胞のペプチド修飾 ～がんワクチンの飛躍的向上を目指して～	北九州市立大学
超小型・安価・容易・高精度な歯車装置遠隔自動異常診断装置の実用化	早稲田大学
つながる自動車つながるロボットのセキュリティを守る機器認証システムの研究	早稲田大学
バルクヘテロ pn 接合を利用した新規固体酸化物太陽電池の試作開発	北九州市立大学
超小型バイナリー発電プラントの実用化開発	早稲田大学
形状記憶ポリマーの温度による剛性変化を利用した関節 および皮膚の柔軟性可変のロボットアームの開発	九州工業大学
靱帯・骨格構造を模した機構設計に関する技術シーズによる 医療福祉分野における装具・義肢への応用展開	九州工業大学
下水汚泥細菌群集の社会体制の理解と有用物質生産技術開発に向けた萌芽的研究調査	九州工業大学
鉛フリーを目指した低コスト高効率を可能とするペロブスカイト太陽電池の開発	九州工業大学
高品位機械加工面創成のための加工計測用 MEMS デバイスの開発	九州工業大学
周波数変調 LED 照明光による無人搬送車の走行ガイドシステムの開発	九州工業大学
確率共鳴法を利用した微小心電計測装置の開発	九州工業大学
フィールドセンシングロボットの自律移動を支援する視野拡張技法の開発	九州工業大学

【実用化研究開発事業】 11 件

装着型パワーアシストユニットの開発	(有) ICS SAKABE
非加熱生物材料を用いる化粧品製造プロセスの開発と皮膚安全性の実証化試験	(株) FILTOM
小型マルチコプタに搭載可能な多波長地形計測機器の実用化	(株)国際海洋開発
高圧ガスアトマイズ法によるマグネシウム合金粉末製造方法の開発	(株)戸畑製作所
ウルトラファインバブル技術を使用した、温浴装置の開発と温浴療法の効果・効能の研究	吉川工業(株)
障害者スポーツ選手向けメンタルコンディションチェックアプリの開発	(株)ブラテック
持続陰圧洗浄療法システムの開発	九州クリエートメディック(株)
人工知能技術を搭載した音声エージェントシステムの研究開発	(株)コンピュータサイエンス研究所
【継続】 感染症の防止を目的としたエコな高殺菌・高消臭光触媒製品の開発と実証	(株)フジコー
【継続】 患者にやさしい連続血圧計の開発～高血圧や一過性意識消失の診断・治療への応用～	(株)パラマ・テック
【継続】 徘徊認知症高齢者の保護者連絡ソフトウェアの開発	(株)ヴィンテージ

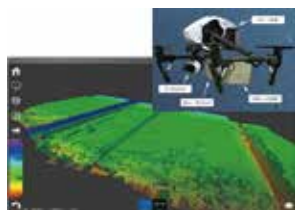
FAIS助成制度の主な成果事例(平成28年度採択テーマより)

【研究テーマ】

小型マルチコプタに搭載可能な
多波長地形計測機器の実用化

【申請企業】

(株)国際海洋開発



地形環境の3次元地形モデルや植物活性度を計測するため、3次元レーザスキャナ・多波長カメラを小型マルチコプタに搭載可能とする多波長地形計測機器を開発しました。開発した機器を小型マルチコプタに搭載することで、地形の可視光だけでなく、赤外・赤色域からの計算による正規化差植生指数も3次元点群データに付加することができるようになりました。

【研究テーマ】

徘徊認知症高齢者探索管理ソフトウェアにおける実証訓練
と自動探索学習機能他の開発
研究

【申請企業】

(株)ウィンテージ



認知症高齢者などの徘徊者を素早く発見し、保護するための探索ソフトウェアを開発しました。

高齢者が持つ子機(ビーコン)の位置を、探索者が親機を使って探索します。親機には子機の位置情報(方向や距離)が表示されます。探索者が親機に示された情報を開発ソフトウェアに登録し、地図上に表示することで、効率的な探索が可能となります。

国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

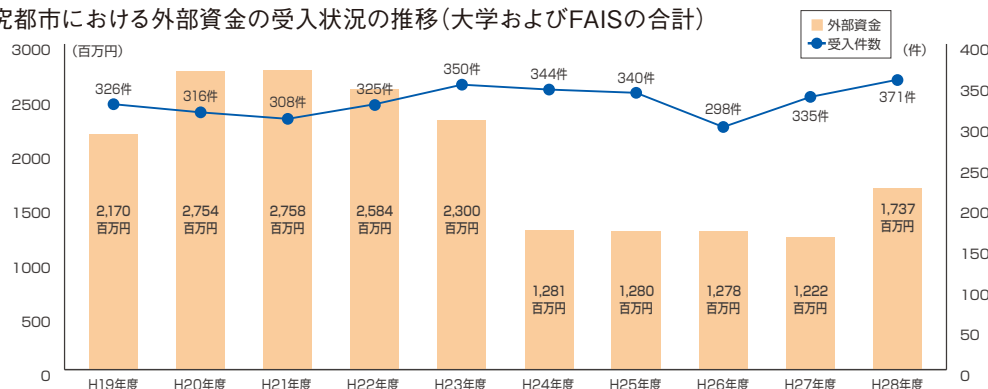
「戦略的基盤技術高度化支援事業(経済産業省)」や「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文部科学省)」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

平成28年度は、各大学における受託研究等と合わせて371件のプロジェクトに取り組みました。

中でも、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が進める「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」では、当財団が中核機関となりFS(フィージビリティ・スタディ)事業を実施し、「環境・エネルギー研究開発拠点」としての基盤整備を進めました。

外部資金の積極的な獲得

北九州学術研究都市における外部資金の受入状況の推移(大学およびFAISの合計)



これまでに実施した主な研究開発プロジェクト

◎主なプロジェクト

経済産業省		
非常用電源としてのマグネシウム空気電池を実現する難燃性マグネシウム合金鋳造薄板による革新的電極素材の開発	25年度～27年度	
【戦略的基盤技術高度化支援事業】		9,200万円
SiCセラミックス大幅適用拡大のための新規2段反応焼結法(接合・精密加工技術)の開発	26年度～28年度	
【戦略的基盤技術高度化支援事業】		9,800万円
外観検査装置の検査精度向上のための曲面配線技術を用いたLEDリング照明の開発	28年度～30年度	
【戦略的基盤技術高度化支援事業】		9,800万円
太陽光発電パネルリサイクル回収ビジネスモデル構築支援事業	28年度	
【地域中核企業創出・支援事業】		600万円
内閣府		
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	26年度～30年度	
【戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)】		8億4,000万円
全国中小企業団体中央会		
竹ープラスチックコンポジット材を活用した事業の推進	26年度～28年度	
【ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業】		2,400万円
JST		
スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点	27年度～28年度	
【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム】		3億3,500万円
文部科学省		
IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業	28年度～32年度	
【地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】		2,150万円

FAISが支援した研究開発プロジェクトの主な事例

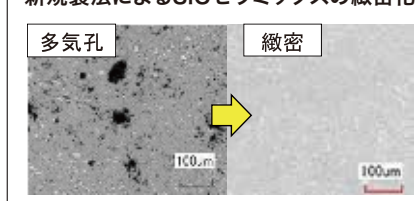
◎SiC セラミックス大幅適用拡大の為の新規2段反応焼結（接合・精密加工技術）の開発

製鉄所、発電設備、ゴミ焼却施設等では、高温鋼材の搬送用ローラー・圧延ロールや、粉末ダストを伴う排気ダクト等に、ハイス系、WC-Co（タングステンカーバイド・コバルト）系超硬合金等の高温構造部材・耐摩耗部材が多用されていますが1ヶ月～半年毎に交換が必要で、多大な保全コストや設備休止が大きな課題となっています。本事業では、超硬合金より耐熱性・耐食性・耐摩耗性に優れているSiCセラミックスの大幅な適用拡大を可能とする新規2段反応焼結法を開発しました。これにより従来製法のような製作形状の制約を受けることなく、SiCセラミックスへの部材置換が実現でき、上記課題を含め、様々な川下企業での課題解決が図られます。

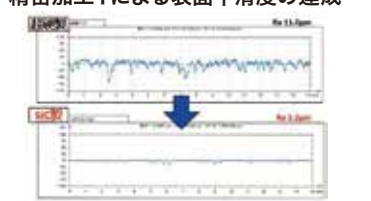
新技術：新規2段反応焼結法



新規製法によるSiCセラミックスの緻密化



精密加工1による表面平滑度の達成



搬送用ローラー SiC試作品



【事業名】 経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業

【参画機関】 (株)フジコー、九州工業大学

【事業期間】 平成26年度～28年度

地域イノベーション戦略支援プログラム（平成24年度～29年度）

地域イノベーション戦略支援プログラムは、地域イノベーション戦略推進地域に選定された地域のうち、文部科学省による支援が地域イノベーション戦略の実現へ大きく貢献すると認められる地域に対して、知的財産の形成や人材育成など、地域の主体的な活動展開に対する支援を行う事業です。

平成23年8月に地域イノベーション戦略推進地域（国際競争力強化地域）の指定を受けた福岡・北九州地域では、福岡県、福岡市、北九州市、地域の大学等研究機関、金融機関、(財)福岡県産業・科学技術振興財団、FAIS等で構成する「福岡イノベーション推進協議会」により、事業プログラムを提案し、平成24年6月に正式採択され事業が開始されました。

FAISは、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団等と連携し、これまで知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化に取り組むとともに、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等、次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んでいます。

平成28年度は、下記のテーマについて研究を推進しました。

【地域イノベーション戦略支援プログラムの研究テーマ】

No.	研究テーマ名	研究代表者
1	有事対応型情報プラットフォームの開発	九州大学 安浦 寛人 理事・副学長
2	複合型社会情報基盤システムの信頼性・安全性保証技術の研究開発	九州大学 福田 晃 教授
3	高性能無線バックホール	九州大学 古川 浩 教授
4	次世代窒化ガリウム(GaN)パワー半導体による革新的ワイヤレス・エネルギー供給技術開発と照明への応用	九州工業大学 大村 一郎 教授
5	MEMSを利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学 安田 隆 教授
6	超低電力アナログLSIの高信頼設計技術に関する研究	北九州市立大学 中武 繁寿 教授
7	新規高輝度LED利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発	北九州市立大学 河野 智謙 教授
8	高機能・高信頼性モジュールのための、高付加価値インターポーターに関する研究	福岡大学 友景 肇 教授
9	3次元LSIによる画像処理チップの研究	早稲田大学 木村 晋二 教授
10	次世代画像符号化(HEVC)の低消費電力化の研究	早稲田大学 木村 晋二 教授
11	CPS(Cyber-Physical System)構築に向けたSSoC(Smart Sensor SoC)利活用技術の開発	(公財)九州先端科学技術研究所 村上 和彰 副所長

※ 〇 は北九州市内研究者のテーマ

JST リサーチコンプレックス推進プログラム

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)では、世界に誇るイノベーション創出を目指し、地域に集積する様々なプレーヤーが共同で、最先端の研究開発、事業化、人材育成を統合的に展開し、複合型イノベーション推進基盤を構築することを目的としたリサーチコンプレックス推進プログラムを実施しています。

FAISを中核機関とする北九州市の提案は、平成27年度に「FS拠点」として採択され、平成28年度までの2年間、今後の北九州学術研究都市の研究開発拠点としての機能等を高めるためのFSを実施し、平成29年度以降の「環境・エネルギー研究開発拠点」としての基盤整備を進めました。

北九州学術研究都市の大学代表者や有識者で構成するマネジメント会議の設置、研究会活動や国内外での専門調査、議論を進め、新技術の社会実装を進める「実証事業実施・実証フィールド基盤」の整備、産学官のインタラクションの場である「フューチャーセンター」の設計、学術研究都市の魅力を発信し人々を呼び込む「ブランディング戦略」の策定、広域的なネットワーク形成などを進め、今後の成長への基盤を整備しました。

北九州学術研究都市は、次のことを目指して、さらなる取組みを進めることとしています。

- 世界からここに課題解決に集まって来る。
- 国内外のソーシャル・イノベーション課題解決に貢献する。
- 実証フィールドでの社会実装実験と規制等課題解決の仕組みづくりを進める。
- 関係者間のインタラクションとイノベーション・起業（事業化）を促進する。

超低炭素社会研究プラットフォームに関する北九州国際フォーラム

「アジアの中核的研究拠点」としての学研都市の発展や、国内外拠点大学・研究機関、国際機関、企業、国などによる国際的な研究プラットフォームを形成するとともに、具体的共同研究をスタートさせることを目的として、FSの一環として、北九州国際フォーラムを開催しました。

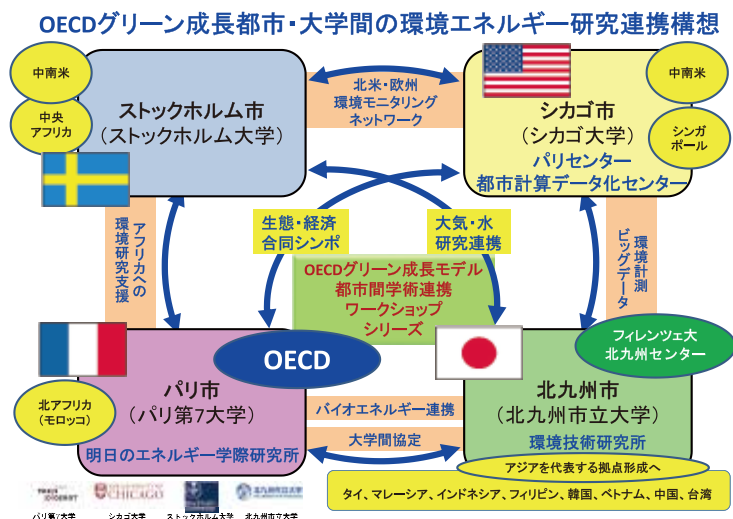
- 平成29年3月30日（於：北九州学術研究都市・会議場）
- 参加機関等：OECD、世界銀行、国連地域開発センター、国立環境研究所、外務省、環境省、シカゴ大学、パリ第7大学、ストックホルム大学、シンガポール国立大学、マレーシアブトラ大学、バンドン工科大学、北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、産業医科大学、IDCフロンティア、新菱、北九州市 他



基調講演：OECD 玉木事務次長



ハイレベル対話



出典：近藤倫明・北九州市立大学学長・ハイレベル対話1資料

超低炭素社会研究プラットフォームに関する北九州国際フォーラム(2017年3月)

フォーラムでは今後のプラットフォーム形成を確認し、国際的共同研究がスタートしました。また海外の拠点大学等から大きな注目を浴び、北九州学術研究都市の「環境・エネルギー研究開発拠点」への集積につながる等の成果を得ました。

技術拠点化の推進

半導体・エレクトロニクス技術拠点化の推進

半導体・エレクトロニクス関連企業支援

半導体設計ツールやIC・MEMS微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

■IC・MEMS微細加工環境の提供

共同研究開発センターの半導体設計ツールと微細加工設備をベースに、IC・MEMSの微細加工プロセスの提供を行っており、文部科学省所管のナノテクノロジープラットフォームの一員として、「微細加工」分野の学術的な基礎研究から産業界における研究開発まで幅広く、大学、企業、研究機関などを支援しています。

■半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコープ等の解析機器及び環境評価装置など、充実した評価・解析環境を提供しているほか、ひびきのLEDアプリケーション創出協議会などの研究グループに対し技術サポート等を実施しています。

ひびきのLEDアプリケーション創出協議会の活動

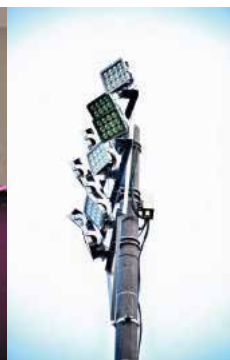
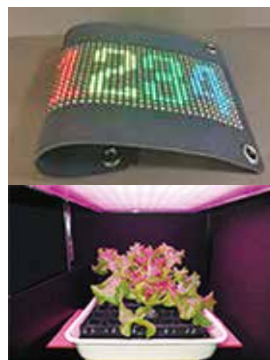
当協議会は、北九州学術研究都市発の新たなアプリケーション創出や地域企業のLEDアプリケーション事業への参入促進などを目指して活動しており、市内中小企業等の研究開発や販路開拓の支援を行っています。

●平成29年4月現在／

会員数 135名、登録研究グループ 18件



展示会出展支援(ライトテックEXPO)



協議会活動の成果品(北九州市トライアル発注認定新商品)

半導体技術者育成講座(ひびきの半導体アカデミー)の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」では、半導体・エレクトロニクス関連企業の技術者などを対象として、社会や産業界に貢献するアプリケーションを創出するための知的基盤や技術力・研究開発力の向上等につながるプログラムを提供しています。

当アカデミーは、学研都市開設以来、これまでに累計約5,500名の方に受講いただき、数多くの半導体技術者を輩出しています。

●平成28年度／講座数 7講座、参加者数 277名

講座風景



高校生対象半導体講座



「真空の世界」遠隔講義

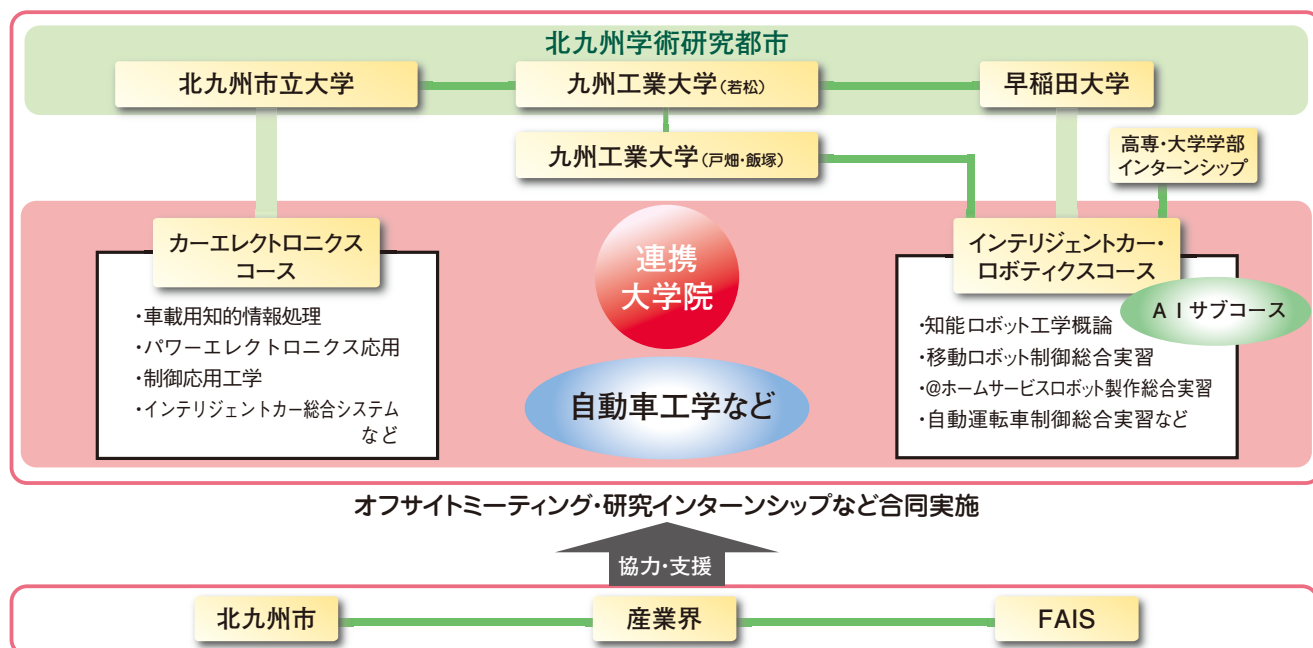
自動車技術拠点化の推進

北九州地域における次世代自動車技術の拠点化を目指し、北九州学術研究都市における高度人材の育成を支援するとともに、産学連携による先端的研究開発を支援しています。

人材育成の推進

自動車とロボットの分野で次世代を担うリーダーとしての高度専門人材の育成を目的に、学研都市の3大学が運営する連携大学院の教育プログラムを支援します。

同大学院では、人工知能（AI）の研究開発を担う人材育成が急務であることを踏まえ、平成29年度から「インテリジェントカー・ロボティクスコース」の科目を見直し、新たに「AIサブコース」を設置します。



研究開発の支援

北九州学術研究都市の研究シーズを活かした産学連携をコーディネートするとともに、特色ある研究開発を支援し、次世代自動車技術等に関する拠点化を推進します。

【研究会の運営】

「自動車の自律走行」「高温実装・材料技術」「AIの社会実装」をテーマにした3研究会を運営。

【研究開発プロジェクトの推進】

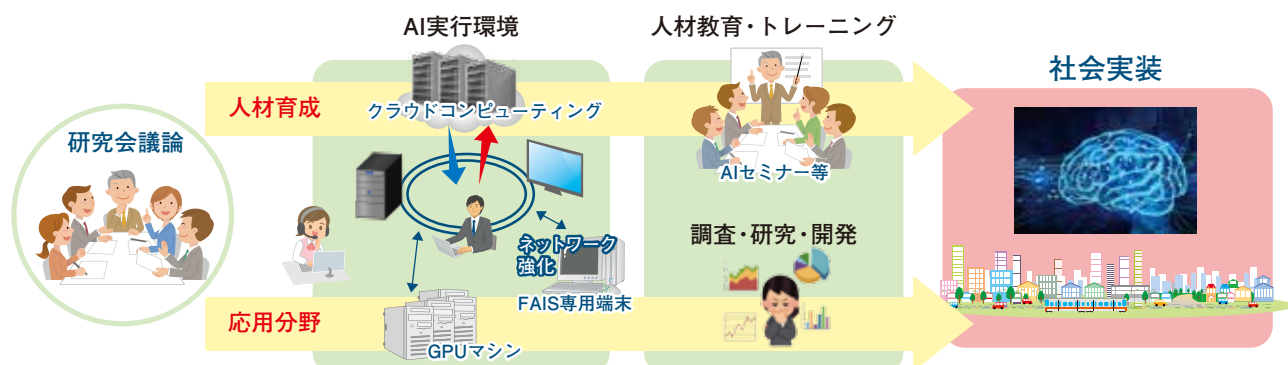
産業界からのニーズが強く実効性の高い研究テーマについて、国のプロジェクトを活用した共同研究を支援。

(テーマ) 自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発

理論知識型AIとデータ駆動型AI統合による自動運転用危険予測装置の構築と公道実証

【平成28年度の新たな取組み】

AIを活用した社会システムづくりの視点から、北九州地域が集団的に取り組むAI研究・技術・事業の方向性を導き出すことを目的に、平成28年6月に「ひびきのAI社会実装研究会」を発足させ、人材育成の方向性や、研究テーマを検討しています。



ロボット技術開発拠点化の推進

北九州市のロボット産業振興のため、「市内ロボット関連企業と大学・研究機関との連携促進・技術コーディネート」「ロボット開発プロジェクトの立ち上げと実証・事業化支援」「市内企業への産業用ロボット導入支援」「ロボット技術人材育成」などを行っています。

豊富な実証データと
ノウハウを有する

**ロボット
実証拠点**

域外や自動車等の
他産業へ技術や
製品を供給する

**ロボット
技術拠点**

ロボットを用いた
サービス等のビジネス
モデルが生まれる

**ロボット
開発拠点**

多くの企業や
大学等の集積による

**ロボット
人材拠点**

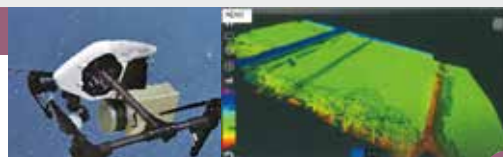
【これまでの成果】

多波長地形計測ロボットの開発（新成長戦略推進研究開発事業）

●株式会社国際海洋開発 ●東海大学 ●FAIS

姿勢計測装置、GPS、多波長カメラ、3Dレーザスキャナをコンパクトに集約した装置をドローンに搭載し、地形等の環境データを収集・3D表示するシステム。

事業化済(平成29年3月)



食事搬送アシストロボットの開発（新成長戦略推進研究開発事業）

●株式会社ICS SAKABE ●九州工業大学 ●FAIS

病院等における食事搬送台車（既製品）に、駆動装置とセンサ内蔵ハンドルを装着し、搬送をアシストするシステム。H29年度は、市内病院等にて実証実験します。



バランス訓練ロボットの高性能化（市内発ロボット創生事業）

●Next Technology ●九州栄養福祉大学 ●西九州大学 ●NPO 福祉用具ネット ●FAIS

バランス感覚を失った患者を訓練するロボットに、体の傾きにに応じて自動的に座面を変化させる機能を追加開発。H29年度は、市内病院等にて評価実施します。



研究開発

産業用ロボット導入支援センター

ロボット導入による市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

- ロボット導入に関する企業訪問・技術相談
- 人材育成（ロボット技術者およびカイゼン指導者）
- ロボット導入に関する情報発信

H28年度の成果

- 国プロ採択（2件）
 1. カイゼン指導者育成事業
 2. 地域未来投資の活性化のための基盤強化事業
- 企業訪問・技術相談 360件
- ロボット導入支援件数 5件
- システムインテグレータ講習（全7回 参加者合計32名）
- 設備増強（ロボット・IoT実証システム）
 - 協働ロボット、ロボットシミュレータ、IoTデータ収集ツール



システムインテグレータ講習



IoTデータ収集ツール

ロボットシミュレータ



ロボット・IoT実証システム

人材育成

国家戦略特区の取り組み

介護ロボット等を活用した先進的介護の実証・実装

FAISでは、平成28年に国家戦略特区「介護ロボット等による先進的介護の実証・実装」に指定された北九州市の委託を受け、介護ロボットの導入による作業効率化と介護の質の向上、介護従事者の負担軽減、介護ロボットの市場拡大などを目的に「国家戦略特区ライン」を設けました。



介護ロボット等導入・実証事業

介護従事者の負担軽減を目的とした介護ロボット等の導入を進めるため、介護施設において、介護作業の分析や介護ロボット等の導入、実証を行っています。

■介護作業の観察と分析

労働現場や労働災害に関する調査・分析に経験、実績、知見のある学術機関等と共同で、介護施設における介護職員等の作業を観察し分析を行いました。



作業観察風景



作業観察ツール

■介護ロボットの導入と実証

作業観察・分析の結果を踏まえて、介護現場で有効なロボットを提案し、北九州市内の施設で、ロボットの安全性や有効性の検証を行いました。

介護ロボット開発事業

介護現場のニーズに沿った実用的な技術開発と国家戦略特区事業効果の最大化に貢献するため、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」の運営を行い、介護従事者の負担軽減、介護現場の効率化等に資するロボット関連技術の開発支援を行うとともに、北九州市特区事業への参画企業（メーカー）が集積するための環境整備を図っています。



実証風景

■介護ロボット関連技術の開発

作業分析によって得られた分析結果と現場ニーズを踏まえ、介護作業の効率化、介護職員の負担軽減に役立つ介護ロボット等の開発・改良を行っています。

■介護ロボット開発コンソーシアム

介護ロボットの開発・改良プロジェクトを企画し、開発に協力可能な会員を募集しています。会員に対して、介護ロボットの開発・改良に関する作業分析データの提供や実証フィールドの提供、安全性検証・倫理審査にかかるサポート、開発費補助や試作・改良等の支援を行っています。

●平成29年4月現在：会員数 18社 4大学 1機関

中小企業・ベンチャー企業の総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日（土・日）相談を実施しています。

●平成28年度実績／総合相談件数393件、休日創業相談4件

直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回専門相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●平成28年度実績／266社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家（登録206名）を派遣して支援をしています。

●平成28年度実績／26件、135回



中小企業支援センター

チーフマネージャー
辻 司
つじ つかさ



中小企業診断士（金融機関出身）。中小企業の資金繰りや融資相談、様々な業種での相談経験を活かし、中小企業の創業から経営革新までの支援を行う。

マネージャー
堺 武志
さかい たけし



合同会社 JEXPO 代表。技術士（総合技術監理、建設、上下水道部門）、環境・建設分野での技術者としての経験と、自ら IT・外国語を駆使して創業した知識を生かし、中小企業の欧州等海外向け販路開拓支援に取り組む。

マネージャー
百々 美香
もも みか



大手広告代理店勤務経験等を活かし、商業・サービス業を中心に、企業ブランディング、新規事業プロデュース、最新の IT サービスを活用したセールスプロモーション企画等を得意とする。女性起業家支援にも力を入れている。

マネージャー
落合 弘
おちあい ひろむ



落合弘税理士事務所所長。税務・会計の専門家として創業予定者への事業計画策定、会社設立や中小企業に対する経営改善、資金調達、事業承継のアドバイスなど総合的な取り組みの支援を行う。

巡回専門相談員
村田 信敏
むらた のぶとし



中小企業診断士。市内の製造業を対象に訪問し、各種相談に応じる。支援施策や担当部署を紹介。

マッチングコーディネーター
財前 秀生
さいぜん ひでお



県内の中小企業情報や全国の発注企業、自動車産業などの情報に精通。製造業の受発注のマッチングを担当。

◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●平成28年度実績／創業33社

◎マッチングコーディネートの実施

幅広い人脈を持つマッチングコーディネーターがものづくり企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。さらに、地場企業の取引拡大・受注機会増大を目的とした商談会も開催しています。

●平成28年度実績／マッチング件数85件、成約件数11件、商談会開催3回

知的所有権の活用支援

◎知的所有権センターの運営

北九州地域の中小企業の新技術・新製品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●平成28年度実績／発明相談74件、 特許活用（成約）3件、 企業相談・指導832件

北九州知的所有権センター

知財トータルサポーター
熊本 洋
くまもと ひろし



電機、窯業メーカー出身。製品開発において多くの特許出願実績を有し、知財業務に精通。知財基礎力の向上、特許等出願、知財戦略等トータルで支援を行う。

特許流通コーディネーター
安部 順一
あべ じゅんいち



電機メーカー出身。研究・開発・製品化の各段階を経験。地域企業、大学、経済団体との幅広いネットワークを有し、新技術・新製品開発を行う企業の支援を行う。

ベンチャー企業の創出・育成

ベンチャー企業の成長支援

◎インキュベーションオフィス「北九州テレワークセンター」の運営

小倉駅北口のAIMビルに設置されたインキュベーション施設「北九州テレワークセンター」について、北九州市から指定管理者としての指定を受け(平成25年度～29年度)、情報通信技術を活用して新たなビジネスを展開しようとするベンチャー企業に対してオフィスを提供しています。

●平成28年度／入居企業数22社



北九州テレワークセンター

「インキュベーション」とは

「ビジネスインキュベーション」の略語で、一般的には「企業ふ化」などと訳されています。当財団では、「新事業創出のための支援」と定義しています。つまり、「ふ化器」にあたるインキュベーション施設で、起業家の皆様をサポートするシステムのことです。

◎市内のインキュベーション施設

「北九州テレワークセンター」(IT系ベンチャー企業向け)

「北九州テクノセンター」(サービス系ベンチャー企業向け)

「北九州市立起業家支援工場」(ものづくり系ベンチャー企業向け)

「北九州学術研究都市 産学連携施設」(大学発ベンチャー企業向け)



北九州テクノセンター



北九州市立起業家支援工場



北九州学術研究都市 産学連携施設(事業化支援センター)

◎ベンチャー企業への集中支援

インキュベーションマネージャーが専門家とも連携して、インキュベーション施設の入居企業に対し、

- ①経営ノウハウの提供、各種支援メニューの紹介
 - ②経営力・技術力向上に向けた各種相談・セミナー等の実施
 - ③ベンチャー企業が開発した商品・サービスの販路開拓支援
- などの支援を行い、売上等の増加に繋げています。

◎北九州ベンチャーイノベーションクラブ(通称:KVIC)の運営

北九州市の新産業および雇用の創出に向けて、ベンチャー企業支援ネットワーク『北九州ベンチャーイノベーションクラブ』を運営し、ビジネスマッチングなどの事業を展開しています。



KVICフェア

評議員名簿

(平成29年7月1日現在)

五十音順

氏名	役職名
梅本 和秀	北九州市副市長
奥田 俊博	九州共立大学長
坂本 満	産業技術総合研究所九州センター所長
自見 榮祐	(一社) 北九州中小企業団体連合会会長
西原 達次	九州歯科大学長
初田 寿	福岡県商工部新産業振興課長
原田 信弘	北九州工業高等専門学校長
東 敏昭	産業医科大学長
松本 豊	(公社) 九州機械工業振興会会長

役員名簿

(平成29年7月1日現在)

五十音順

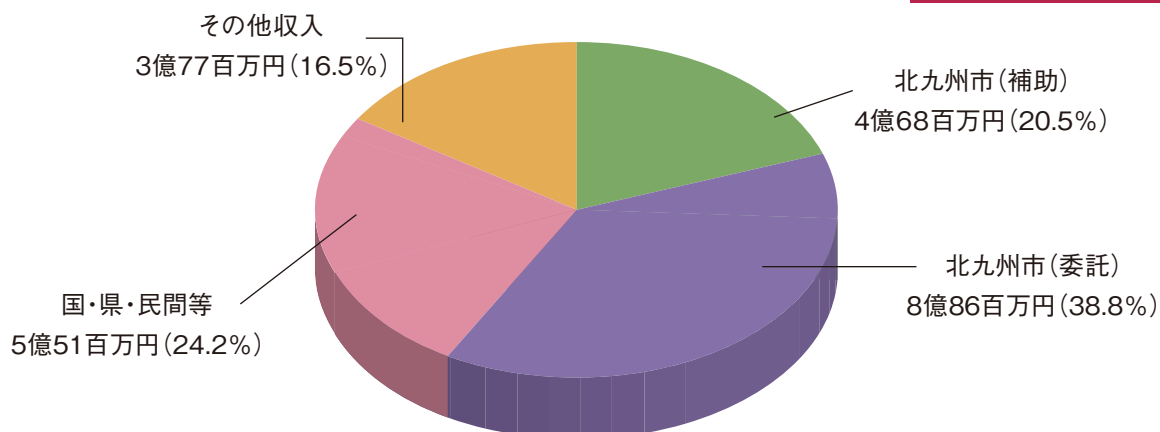
役員の種類	氏名	役職名
理 事 長	松永 守央	(公財) 北九州産業学術推進機構
副理事長	重松 崇	(公財) 北九州産業学術推進機構
専務理事	松岡 俊和	(公財) 北九州産業学術推進機構
理 事	梶原 昭博	北九州市立大学副学長
//	利島 康司	北九州商工会議所会頭
//	富高 紳夫	北九州市産業経済局企業立地・食ブランド推進担当理事
//	橋本 周司	早稲田大学副総長
//	早瀬 修二	九州工業大学副学長
監 事	石井 佳子	北九州市会計室長
//	吉野 浩実	(株) 西日本シティ銀行常務執行役員北九州総本部長

平成28年度 決算資料

収入および支出内訳

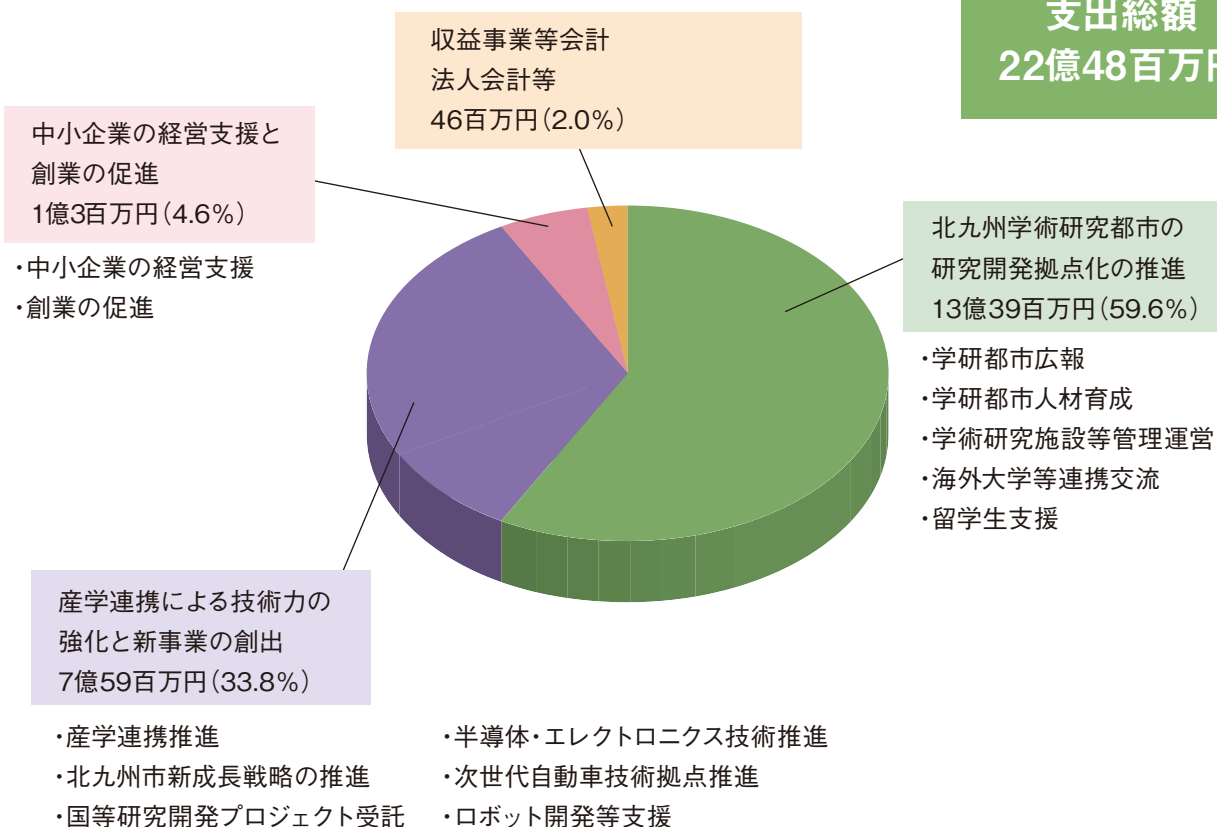
<収入>

収入総額
22億82百万円



<支出>

支出総額
22億48百万円



貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位: 円)

科目	平成28年度	平成27年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	541,079,409	484,201,734	56,877,675
未収金	236,986,387	260,877,208	△ 23,890,821
流動資産合計	778,065,796	745,078,942	32,986,854
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	194,379,696	198,898,278	△ 4,518,582
普通預金	4,620,304	101,722	4,518,582
定期預金	1,000,000	1,000,000	0
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
留学生支援事業積立資産	10,975,972	2,805,649	8,170,323
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	28,039,788	28,039,788	0
特定資産合計	48,652,171	40,481,848	8,170,323
(3) その他固定資産			
車両運搬具	1	132,400	△ 132,399
機械設備	12,159,513	45,968,998	△ 33,809,485
什器備品	99,042,946	35,388,198	63,654,748
無形固定資産	55,050,244	87,803,248	△ 32,753,004
リース資産	0	457,800	△ 457,800
電話加入権	1,000	1,000	0
長期未収金	0	230,202	△ 230,202
貸倒引当金	0	△ 115,101	115,101
その他固定資産合計	166,253,704	169,866,745	△ 3,613,041
固定資産合計	414,905,875	410,348,593	4,557,282
資産合計	1,192,971,671	1,155,427,535	37,544,136
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	409,909,526	291,101,120	118,808,406
前受金	0	121,158,613	△ 121,158,613
預り金	6,150,114	5,492,814	657,300
流動負債合計	416,059,640	417,752,547	△ 1,692,907
2. 固定負債			
長期リース債務	0	457,800	△ 457,800
固定負債合計	0	457,800	△ 457,800
負債合計	416,059,640	418,210,347	△ 2,150,707
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
北九州市補助金	59,383,812	50,406,060	8,977,752
国庫補助金	40,972,337	12,817,704	28,154,633
その他補助金	1,458,000	3,645,000	△ 2,187,000
寄付金	209,580,000	200,000,000	9,580,000
指定正味財産合計	311,394,149	266,868,764	44,525,385
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(9,580,000)	(0)	9,580,000
2. 一般正味財産	465,517,882	470,348,424	△ 4,830,542
(うち特定財産への充当額)	(39,072,171)	(40,481,848)	△ 1,409,677
正味財産合計	776,912,031	737,217,188	39,694,843
負債及び正味財産合計	1,192,971,671	1,155,427,535	37,544,136

正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位: 円)

科目	平成28年度	平成27年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	546,459	616,619	△ 70,160
②事業収益			
北九州市受託事業収益	885,845,438	861,195,987	24,649,451
国受託事業収益	19,763,317	41,329,258	△ 21,565,941
その他受託事業収益	416,410,461	154,627,549	261,782,912
T L Oライセンス事業収益	2,025,778	2,506,976	△ 481,198
その他事業収益	346,378,803	334,766,811	11,611,992
収益事業等会計収益	19,864,501	19,459,668	404,833
③受取補助金等			
受取北九州市補助金	435,392,586	504,884,926	△ 69,492,340
受取福岡県補助金	1,362,650	1,452,516	△ 89,866
受取国庫補助金	60,795,529	29,999,420	30,796,109
受取その他補助金	9,017,568	7,009,229	2,008,339
受取補助金等振替額	29,458,270	13,663,041	15,795,229
④受取寄付金			
受取寄付金	4,520,000	1,320,000	3,200,000
受取寄付金振替額	420,000	0	420,000
⑤雑収益			
受取利息	60,071	436,164	△ 376,093
雑収益	93,780	612,306	△ 518,526
経常収益計	2,231,955,211	1,973,880,470	258,074,741
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,102,962	13,163,948	△ 60,986
給与	238,119,531	240,101,000	△ 1,981,469
福利厚生費	49,971,384	49,572,132	399,252
会議費	1,332,028	1,002,733	329,295
渉外費	411,674	668,279	△ 256,605
旅費交通費	36,875,510	24,229,155	12,646,355
通信運搬費	12,716,686	13,972,825	△ 1,256,139
減価償却費	59,211,430	56,320,199	2,891,231
消耗品費	22,404,529	15,911,063	6,493,466
修繕費	89,153,899	52,573,295	36,580,604
印刷製本費	2,246,096	1,990,633	255,463
新聞図書費	5,115,563	3,999,989	1,115,574
燃料費	332,673	312,888	19,785
光熱水費	212,201,203	224,182,394	△ 11,981,191
賃借料	164,599,170	167,054,378	△ 2,455,208
保険料	1,439,620	1,577,340	△ 137,720
諸謝金	41,796,305	45,119,367	△ 3,323,062
租税公課	17,089,720	15,465,965	1,623,755
委託費	949,618,088	792,349,620	157,268,468
支払負担金	99,076,910	97,344,846	1,732,064
支払助成金	140,107,381	133,353,387	6,753,994
ライセンス料	905,459	1,275,253	△ 369,794
支払手数料	5,560,704	1,208,847	4,351,857
奨学金	15,740,000	14,520,000	1,220,000
雑費	702,094	217,727	484,367
貸倒損失	173,805	0	173,805
貸倒引当金繰入額	0	115,101	△ 115,101

科目	平成28年度	平成27年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,367,655	4,387,982	△ 20,327
給与	7,025,435	6,923,955	101,480
福利厚生費	1,263,040	1,166,870	96,170
会議費	32,010	40,918	△ 8,908
渉外費	142,564	20,400	122,164
旅費交通費	1,808,750	1,688,330	120,420
通信運搬費	178,960	180,113	△ 1,153
減価償却費	215,302	1,045,431	△ 830,129
消耗品費	309,764	690,917	△ 381,153
修繕費	0	2,700	△ 2,700
印刷製本費	53,568	204,768	△ 151,200
新聞図書費	308,800	310,100	△ 1,300
燃料費	267,327	309,992	△ 42,665
光熱水費	65,658	68,882	△ 3,224
賃借料	2,424,766	2,631,018	△ 206,252
保険料	144,990	176,410	△ 31,420
諸謝金	877,800	868,630	9,170
租税公課	52,680	△ 6,065	58,745
委託費	1,819,540	1,208,174	611,366
支払負担金	621,390	740,630	△ 119,240
支払手数料	846,494	719,946	126,548
雑費	18,150	3,500	14,650
経常費用計	2,202,849,067	1,990,985,965	211,863,102
当期経常増減額	29,106,144	△ 17,105,495	46,211,639
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①固定資産売却益			
什器備品売却益	0	64,800	△ 64,800
経常外収益計	0	64,800	△ 64,800
(2) 経常外費用			
①除却損失			
什器備品除却損	125,925	1,079,906	△ 953,981
無形固定資産除却損	32,825,761	15,823,513	17,002,248
経常外費用計	32,951,686	16,903,419	16,048,267
当期経常外増減額	△ 32,951,686	△ 16,838,619	△ 16,113,067
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,845,542	△ 33,944,114	30,098,572
法人税・住民税及び事業税	985,000	1,384,500	△ 399,500
当期一般正味財産増減額	△ 4,830,542	△ 35,328,614	30,498,072
一般正味財産期首残高	470,348,424	505,677,038	△ 35,328,614
一般正味財産期末残高	465,517,882	470,348,424	△ 4,830,542
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
受取北九州市補助金	32,825,449	16,790,581	16,034,868
受取国庫補助金	31,578,206	13,792,320	17,785,886
受取その他補助金	0	4,374,000	△ 4,374,000
受取寄付金			
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
基本財産受取利息	546,459	616,619	△ 70,160
一般正味財産への振替額	△ 30,424,729	△ 14,279,660	△ 16,145,069
当期指定正味財産増減額	44,525,385	21,293,860	23,231,525
指定正味財産期首残高	266,868,764	245,574,904	21,293,860
指定正味財産期末残高	311,394,149	266,868,764	44,525,385
III 正味財産期末残高	776,912,031	737,217,188	39,694,843

アクセスマップ

北九州学術研究都市

●キャンパス運営センター

●産学連携統括センター

ものづくり革新センター
半導体・エレクトロニクス技術センター
自動車技術センター
ロボット技術センター
国家戦略特区ライン

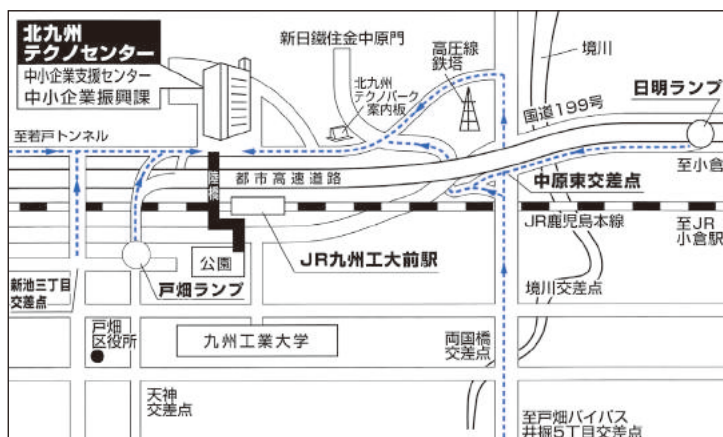


- 【公共交通機関の場合】 ◎ JR折尾駅西口バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約15分
◎ 北九州空港バス停 → 西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約80分
- 【車をご利用の場合】 ◎ 北九州都市高速道路 黒崎出入口 ※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分
◎ 小倉都心 → 北九州都市高速道路 東田出入口 → 黒崎バイパス 皇后崎ランプ → 学研都市ひびきの ※所用時間小倉都心から約30分

北九州テクノセンタービル

●中小企業支援センター

中小企業・ベンチャー支援部経営支援課

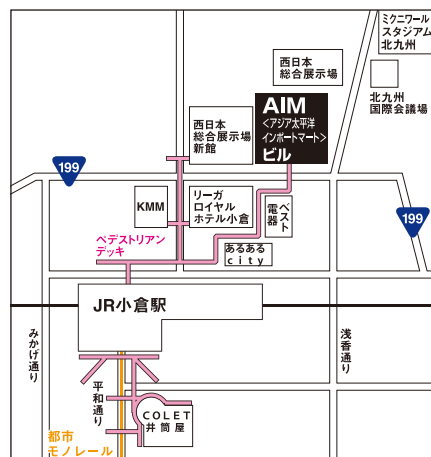


- ◎ JR九州工大前駅下車北側へ徒歩3分
◎ 小倉方面から
国道199号中原東交差点よりテクノパークへ入る
◎ 戸畑方面から
北九州都市高速戸畑ランプへ向かってJR線をまたぐ高架を上り、
料金所直前で左折してテクノパークへ入る（一方通行）

アジア太平洋インポートマート (AIM)

●中小企業支援センター

中小企業・ベンチャー支援部ベンチャー支援課



- ◎ JR小倉駅・北九州モノレール小倉駅から
徒歩5分（ペDESTリアンデッキでウォークイン）
◎ 北九州空港から：車で約30分、エアポートバスで55分
◎ 北九州都市高速道路：小倉駅北ランプから車で3分
◎ 福岡空港から：地下鉄、新幹線で40分



ご連絡・お問い合わせは 公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) の各センターへ

【北九州学術研究都市ホームページ】 <http://www.ksrp.or.jp/>

【公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) ホームページ】 <http://www.ksrp.or.jp/faiss/>

北九州学術研究都市に関する全般的なお問い合わせ		E-mail / info@ksrp.or.jp
キャンパス運営センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3111 FAX 093-695-3010
大学の研究内容の活用、産学連携に関するお問い合わせ		E-mail / iac@ksrp.or.jp
産学連携統括センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006 FAX 093-695-3018
「革新的ものづくり」活動の支援、その他研究開発プロジェクト等に関するお問い合わせ		E-mail / iac@ksrp.or.jp
ものづくり革新センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006 FAX 093-695-3018
半導体関連の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / sec@ksrp.or.jp
半導体・エレクトロニクス技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3007 FAX 093-695-3667
自動車分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / car@ksrp.or.jp
自動車技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3685 FAX 093-695-3686
ロボット分野の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / robotics@ksrp.or.jp
ロボット技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3085 FAX 093-695-3525
国家戦略特区ライン（介護ロボット開発支援）の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / robocare@ksrp.or.jp
国家戦略特区ライン	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3046 FAX 093-695-3525
中小企業の経営、創業に関するお問い合わせ		E-mail / k_info@ksrp.or.jp
中小企業支援センター	北九州テクノセンタービル1階	TEL 093-873-1430
中小企業・ベンチャー支援部経営支援課	〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町 2-1	FAX 093-873-1450
中小企業・ベンチャー支援部ベンチャー支援課	AIM（アジア太平洋インポートマート）ビル6階 〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3-8-1	TEL 093-513-5300 FAX 093-513-5323